図書だより

2023 2月

種子島中央高等学校図書館

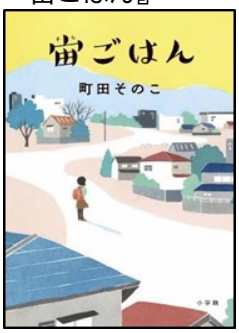
2023年 本屋大賞 ノミネート作品発表

本屋大賞とは，全国の書店員が自分で読んで「面白かった」，「お客様にも薦めたい」，「自分の店で売りたい」と思った本を選び投票して決める賞です。一次投票の結果，上位10作品が候補作として発表されました。書店員さんが選ぶだけあって，どれを読んでも楽しめますよ！大賞発表は4月12日なので，それまでに読み比べて大賞を予想してはいかがでしょう？

寺地はるな
『川のほとりに立つ者は』

小川哲
『君のクイズ』

町田その子
『宙ごはん』



青山美智子
『月の立つ林』

凪良ゆう
『汝、星のごとく』

夕木春央
『方舟』

結城真一郎
『#真相をお話しします』

呉勝浩
『爆弾』

一穂ミチ
『光のとこにいてね』

安壇美緒
『ラブカは静かに弓を持つ』

上段の４冊はまだ注文中ですが，
他の６冊は図書室にありますので
読んでみてください！
もし，お目当ての本が貸出中の場
合は，カウンターで貸出予約でき
ますよ。

先生のオススメ図書

地歴公民科　三輪孝子

「関ヶ原　（上・中・下）」 司馬遼太郎（新潮文庫）

天下分け目の合戦，関ヶ原の戦いを描いた小説。天下取りを目指す徳川家康と豊臣家を守りたい石田三成の攻防。日本史の教科書ではわずか6行の出来事を全3巻1569ページの分量で書き上げた著者の情報収集と想像力には驚く。関ヶ原の戦いは，一日の戦いで決着がついたが，それまでの両陣営の情報戦と武将たちの心情が丁寧に描かれていて，時代小説であるが，政治小説として読んでも面白い。著者は敗北した石田三成に厳しい。有能な官吏としては認めつつも「とげのある言葉がどれほどの敵をつくってきたか」「自分に有利な，自分にとって光明になる計算しかできない」とその性格の横柄さを語る。また，島津が家康に敵対したにもかかわらず本領安堵（ほんりょうあんど）（土地の所有権を認めること）された理由，関ヶ原での失敗を幕末に生かしたこと（ネタバレになるのでここでは書かない）など，興味深い事がたくさん書かれている。今年はNHKの大河ドラマ「どうする家康」が放送され，家康ブームがくると思うので，是非読んでもらいたい。

あわせて，「江戸500藩全解剖　関ヶ原の戦いから徳川幕府，そして廃藩置県まで」河合敦（朝日新聞出版）もお薦めです。読みやすい新書です。歴史を好きになってください！

新着図書のお知らせ

★光のとこにいてね（一穂ミチ）
・栞と嘘の季節（米澤穂信）
・首取物語（西條奈加）
・犬のかたちをしているもの(高瀬隼子)
・きみだからさびしい（大前粟生）
・斜陽の国のルスダン（並木陽）
・青の刀匠（天沢夏月）
★15歳のテロリスト（松村涼哉）
★20代で得た知見（Ｆ）
・いろは判じ絵（塚原敬史編）
・批評の教室（北村紗衣）
・自分ごとの政治学（中島岳志）
・民主主義とは何か（宇野重規）
・手の倫理（伊藤亜紗）
・生物はなぜ死ぬのか（小林武彦）
・はずれ者が進化をつくる（稲垣栄洋）
・「男女格差後進国」の衝撃（治部れんげ）
・今日拾った言葉たち（武田砂鉄）
・正義を振りかざす「極端な人」の正体（山口真一）
・・・ほか多数配架！（★はリクエスト本です）